



希望の鐘

2024・9・28 発行 文責：菅野 弘尊

「北海道聾学校スポーツ交歓会を終えて」

校長 菅野 弘尊

夏の暑さは、幸い心配された程ではなく落ち着き、逆に一気に肌寒くなってきました。急な寒暖の差に体調を崩さないよう、お気をつけください。

その秋の始まりとなる9月上旬、本校を会場にして北海道聾学校スポーツ交歓会が開かれました。全道の聾学校から小学部5学年以上の子どもたち約50人が参加し、生徒会主催のゲーム交流や、ポッチャ、申告タイム走を行う大会です。実際に集まって交流できたのは5年ぶり、参加した児童生徒全員が、参集では初参加ということになります。

大会では他校の子どもたちと力と知恵を出し合い、紙のタワーを高く作り上げ、持参した名刺交換をして顔合わせをしました。また、混成チーム対抗のポッチャでは初対面の友達と励まし合い、一投のたびに盛り上がりました。「申告タイム走」は、ただ速く走るのではなく各自が申告したタイムにどれだけ近い時間で走ったかを競う競技です。100分の1秒までぴったりと申告タイムに合った走りをする猛者が出たときには、たくさんトレーニングをしてきたのかなと感じました。また、競走競技では普段なかなか賞を取れなかった子どもが3位までに入賞し本人自身がびっくりしている場面など、ユニークな展開もありました。

その2日間、私はずっと笑顔になったり感心させられたりしていました。子どもたちが学校も学年も違うのにも関わらずどんどん仲良くなっていく姿や、堂々とした選手宣誓をしてくれた生徒会長をはじめとする旭川聾の子どもたちの生き生きとした様子を見られたからです。また、ポッチャや申告タイム走で良いプレイが出たときに素直に盛り上がり讃え合う様子、失敗したときには励まし合う様子は、50人全員があたかも同じ学校の子どもであるかのようでした。もちろん照れてなかなか新たな輪に入っていけない子どもたちもいましたが、全部含めて「子どもたちの力は本当に凄い。素直な気持ちを大事に育てたい。」と思えた時間になりました。

昔から、この機会に出会った他校の子どもたちとのつながりが続く例や、高等聾学校で再会して仲が深まることも多く聞きます。また、あれ程多くの聾学校の友達が集まる場合は、子どもたちは経験していません。対象学年以外の子どもたちも、盛り上がる体育館の様子を見たり聞いたりしていると思いますので、御家庭でも子どもが何を感じたか、どういったつながりをもてたのか等、お話を聞いていただければと思います。

各学部の活動より

「みんなで一緒に楽しいリズム！」

9月から、「楽しいリズム」や「元気に遊ぼう」の取り組みが3学年合同となりました。1学期の間は学年ごとに発達にあった遊びを行っていましたが、夏あたりから少しずつ合同での取組を始め、2学期から本格的に開始しました。楽しいリズムは、お名前呼びの歌遊びから始まります。1人ずつお名前を呼ばれて前に出て歌う場面では、最初は恥ずかしがったり、声が小さかったりしたお友達も、今では名前を呼んでもらうと「♪ここです、ここです、ここにいます～」と、元気に身振りをつけて歌ってくれています。自分の名前がいつ呼ばれるのか、わくわくとした表情で待っているお友達の笑顔がとっても素敵です。季節の歌遊びやお遊戯、リズム遊びでも、7名とも楽しそうに元気いっぱいに取り組んでいます。



幼稚部 担当



「朝のこつこつタイム」

昨年度に引き続き、毎週木曜日の8:40～8:55に小学部全員でiPadを使ったタイピング練習をしています。1年生から全員が、ローマ字で入力できることを目標に、それぞれ合ったアプリを使用しています。子どもたちは、短い時間の中とても集中してタイピング練習に励んでいます。

初めは、人差し指1本でキーボードを押していたり、ローマ字表を見ながら文字を打ったりしていましたが、今ではホームポジションを覚4すらずら文字を打つ様子も少しずつ見られてきました。今年度、初めて取り組む1年生の2人も楽しそうにiPadに向かっています。



小学部 担当



「聾学校スポーツ交歓会までの道程」

全道の仲間を迎えるため、中学部生徒会では1学期から交歓会の準備を進めてきました。久しぶりの参集型の大会ということもあり、具体的なイメージがない状態で交歓会のゲームの内容を考えるのは大変だったようです。それでも、「誰もが楽しめるゲーム」を準備するために、何度も何度も話し合いを続けてきました。

また、2年生の2人は司会や挨拶といった大役を担うため、不安も大きかったと思います。期末テストもあり、気持ちの余裕もなかったかもしれませんが、自分のことだけでなく、全道の仲間たちのために練習を進めてきました。廊下を歩く度に、司会や挨拶の練習の声と共に先生方の応援の声も聞こえ、真剣さが伝わりました。

さて、交歓会当日、周りの表情は見えたでしょうか。会場が笑顔で満たされていたことに気が付いたでしょうか。たくさんの笑顔は、皆さんの思いや努力が多くの人に伝わった証です。



中学部 担当

新たな挑戦と活用を～A Iドリル導入～

小学部と中学部ではA Iドリルを導入します。年度途中での提案となりましたが、御理解をいただきありがとうございました。授業中や宿題、家庭学習での活用など、これから御家庭の協力も得ながら子どもたちのために活用を進めて行きます。

